

注意	チアプリド	QT 延長、心室性不整脈等	相加作用 (チアプリドも QT 間隔を延長させるおそれがある)
注意	チアプリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用

併用薬剤名

パנקロニウム

関連キーワード:
筋弛緩薬
クラール様物質

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ペントバルビタール	筋弛緩作用・呼吸抑制作用 ↑ 異常が認められた場合には、ペントバルビタールを減量するなど適切な処置を行う。	相加作用
注意	ゾピクロン	抗痙攣作用・中枢神経抑制作用 ↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用

併用薬剤名

非ステロイド系抗炎症薬

関連キーワード:
出血傾向が増強する薬剤
止血・血液凝固を阻害する薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	セルトラリン	異常出血 (鼻出血、胃腸出血、血尿等) が報告されているので、注意して投与すること。	SSRI によって血小板凝集能が阻害される。
注意	フルボキサミン	皮膚の異常出血 (斑状出血、紫斑等)、出血症状 (胃腸出血等)	SSRI の血小板凝集阻害が相加され、出血傾向 ↑
注意	パロキセチン	出血傾向が増強するおそれがある。	相加作用

併用薬剤名
ヒダントイン誘導体
関連キーワード: 抗てんかん剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	クロナゼパム	作用↑or作用↓ フェニトインの血中濃度をモニタリングすることが望ましい。	機序不明だが、血中濃度↑と血中濃度↓の両方の報告がある

併用薬剤名
非定型抗精神病薬
関連キーワード: 抗精神病薬 抗ドパミン作用を有する薬剤 出血傾向が増強する薬剤 出血症状の報告のある薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	セルトラリン	異常出血(鼻出血、胃腸出血、血尿等)が報告されているので、注意して投与すること。	SSRIによって血小板凝集能が阻害される。
注意	フルボキサミン	皮膚の異常出血(斑状出血、紫斑等)、出血症状(胃腸出血等)	SSRIの血小板凝集阻害が相加され、出血傾向↑
注意	パロキセチン	出血傾向が増強するおそれがある。	作用が増強(相加作用?)

併用薬剤名
ビノレルビン
関連キーワード: 抗悪性腫瘍薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ミダゾラム	骨髄抑制等の副作用↑	CYP3A4阻害により、抗悪性腫瘍薬の代謝↓血中濃度↑

併用薬剤名
ピモジド 関連キーワード: QT 延長を起こすことが知られている薬剤 抗精神病薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	スルトグリド	QT 延長, 心室性不整脈等	相加作用
注意	スルピリド	QT 延長, 心室性不整脈等	相加作用
禁忌	セルトラリン	ピモジドの AUC ↑, Cmax ↑ ピモジドは QT 延長を引き起こすことがあるのでセルトラリンと併用しないこと。	機序不明
禁忌	パロキセチン	QT 延長, 心室性不整脈(torsades de pointes を含む)	ピモジドの血中濃度 ↑
禁忌	フルボキサミン	QT 延長, 心室性不整脈(torsades de pointes を含む)	ピモジドの血中濃度 ↑ 又は半減期 ↑

併用薬剤名
ピロカルピン 関連キーワード: コリン作動薬 副交感神経刺激剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	コリン作動薬の作用 ↓	拮抗作用
注意	イミプラミン	ピロカルピンの作用 ↓	拮抗作用
注意	クロミプラミン	ピロカルピンの作用 ↓	拮抗作用
注意	マプロチリン	ピロカルピンの作用が減弱されることがある。	拮抗作用

併用薬剤名
フェニトイン 関連キーワード: CYP3A4 誘導作用を有する薬剤 肝酵素誘導作用をもつ薬剤 抗てんかん薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	フェニトインの作用↑	フェニトインの代謝が阻害され、フェニトインの血中濃度↑
注意	クロミプラミン	フェニトインの作用↑	他の三環系抗うつ剤(イミプラミン)でフェニトインの代謝が阻害され、フェニトインの血中濃度が上昇するという報告がある。
注意	パロキセチン	パロキセチンの作用↓	パロキセチンの血中濃度↓
注意	マプロチリン	三環系抗うつ剤(イミプラミン)で、フェニトインの作用↑	フェニトインの代謝が阻害され、フェニトインの血中濃度が上昇すると考えられている。
注意	ロフェプラミン	他の三環系抗うつ薬(イミプラミン)でフェニトイン中毒症状(運動失調等)があらわれるとの報告がある。	イミプラミンによる肝代謝阻害でフェニトインの血中濃度↑
注意	トラゾドン	フェニトインの血中濃度↑	機序不明
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用↓	CYP3A4 誘導作用によりアミトリプチリンの代謝↑により血中濃度↓
注意	クエチアピン	クエチアピンの作用↓	CYP3A4 の誘導により、クエチアピンのクリアランス↑(外国人でクリアランスが約 5 倍↑、Cmax が 66%↓、AUC が 80%↓)
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度↓	肝酵素誘導作用による。
注意	マプロチリン	三環系抗うつ剤(イミプラミン)の作用↓	バルビツール酸誘導体又はフェニトイン等の肝酵素誘導作用により、イミプラミンの代謝↑
注意	イミプラミン	イミプラミンの血中濃度↓	肝酵素誘導作用による。
注意	フルボキサミン	抗てんかん薬の血中濃度↑ 抗てんかん薬を減量するなどして注意して使用する。	抗てんかん薬の血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑

併用薬剤名
フェニレフリン 関連キーワード: アドレナリン作動薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	アドレナリン作動薬の作用↑	三環系抗うつ薬は交感神経末梢へのノルアドレナリン等の取り込みを抑制する。
注意	クロミプラミン	アドレナリン作動薬の作用↑	クロミプラミンは交感神経末梢へのノルアドレナリン等の取り込みを抑制する。
注意	マプロチリン	アドレナリン作動薬の作用↑	マプロチリンは交感神経末梢へのノルエピネフリン等の取り込みを抑制し、受容体部位へのアドレナリン作動性を上昇させ、作用を増強させる。

併用薬剤名

フェノチアジン系薬剤

例)

クロルプロマジン
ペルフェナジン
レボメプロマジン など

関連キーワード:

CYP2D6 阻害作用を有する薬剤
痙攣閾値を低下させる薬剤
抗コリン作用を有する薬剤
抗精神病薬
抗ドパミン作用を有する薬剤
出血症状の報告のある薬剤
出血傾向が増強する薬剤
中枢神経抑制薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用↑	CYP2D6 阻害作用によりアミトリプチリンの代謝↓により血中濃度↑
注意	アルプラゾラム	眠気、注意力・集中力・反射運動能↓	中枢神経抑制作用の相加作用
注意	イミプラミン	抗コリン作用↑、中枢神経抑制作用↑	相加作用
注意	エスタゾラム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等↓	相加作用
注意	エチゾラム	眠気、血圧低下、運動失調、意識障害など	相加作用
注意	オキサゾラム	中枢神経抑制作用↑ 投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	オランザピン	抗コリン系の副作用↑(腸管麻痺等)	相加作用
注意	クアゼパム	中枢神経抑制作用↑を増強することがある	相加作用
注意	クロキサゾラム	中枢神経抑制作用作用↑ 投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	クロチアゼパム	眠気、血圧低下、運動失調など	相加作用
注意	クロナゼパム	中枢神経抑制作用↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与すること。	相加作用
注意	クロミプラミン	抗コリン作用↑、中枢神経抑制作用↑	相加作用
注意	クロラゼパ酸二カリウム	中枢神経抑制作用↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず併用する場合は、減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	クロルジアゼパキンド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等↓	相加作用
注意	ジアゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	相加作用
注意	スルピリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用
注意	セチプチリン	眠気、脱力感、怠感、ふらつき等があらわれやすい。	相加作用
注意	セルトラリン	異常出血(鼻出血、胃腸出血、血尿等)が報告されているので、注意して投与すること。	SSRI によって血小板凝集能が阻害される。
注意	ゾピクロン	抗痙攣作用・中枢神経抑制作用↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用

注意	ゾルピデム	中枢神経抑制作用 ↑ 慎重に投与する。	相加作用
注意	チアプリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用
注意	デカン酸ハロペリドール	抗コリン系の副作用 ↑ (腸管麻痺等)、精神症状の悪化	相加作用
注意	トフィソパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	トラゾドン	血圧低下を起こすおそれがある。	α 受容体遮断の相加作用。
注意	トリアゾラム	中枢神経抑制作用が増強される。	相加作用？
注意	トリクロホスナトリウム	中枢神経抑制作用 ↑ やむを得ず投与する場合には減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	ニトラゼパム	作用 ↑ 投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	ニメタゼパム	作用 ↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	ノルトリプチリン	口渇、便秘、排尿困難、眼内圧亢進等があらわれることがある。	抗コリン作用の相加作用
注意	ハロキサゾラム	作用 ↑ 投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与すること。	相加作用
注意	パロキセチン	出血傾向が増強するおそれがある。	作用が増強
注意	パロキセチン	悪性症候群があらわれるおそれ。 過鎮静、錐体外路症状等。	フェノチアジン系抗精神病剤の血中濃度 ↑
注意	ハロペリドール	抗コリン系の副作用 ↑ (腸管麻痺等)、精神症状の悪化	抗コリン作用の相加作用
注意	フェノバルビタール	相互に作用 ↑ 減量するなど注意すること。	相加作用
注意	プラゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	フルジアゼパム	フルジアゼパムの作用 ↑ 併用しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	フルタゾラム	相互に作用 ↑ 減量するなど注意する。	相加作用
注意	フルトプラゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	相加作用
注意	フルニトラゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	フルボキサミン	皮膚の異常出血 (斑状出血、紫斑等)、出血症状 (胃腸出血等)	SSRI の血小板凝集阻害が相加され、出血傾向 ↑
注意	フルラゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	プロチゾラム	鎮静作用 ↑	鎮静作用の相加作用
注意	プロマゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	ブロムペリドール	抗コリン系の副作用 ↑ (腸管麻痺等)、精神症状の悪化	抗コリン作用の相加作用
注意	プロモバレリル尿素	プロモバレリル尿素の作用 ↑ 減量するなど注意する。	相加作用
注意	ペントバルビタール	中枢神経抑制作用 (催眠、鎮静、昏睡等) ↑ 定期的に臨床症状を観察し、異常があればペントバルビタールを減量するなど適切な処置を行う。	相加作用
注意	抱水クロラール	相互に作用 ↑ 減量するなど注意すること。	相加作用
注意	マプロチリン	痙攣発作 鎮静・抗コリン作用 ↑	相加作用 危険因子：痙攣素因のある患者

注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用↑	相加作用
注意	メキサゾラム	中枢神経抑制作用↑ 投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	メダゼパム	中枢神経抑制作用↑ 投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	リルマザホン	中枢神経抑制作用↑ 併用しないことが望ましい。やむを得ず併用する場合には慎重に投与する。	相加作用
注意	ロフェブラミン	他の三環系抗うつ薬(イミプラミン)で双方の血中濃度↑の報告あり	相互に代謝を阻害し、双方の血中濃度↑
注意	ロフラゼパ酸エチル	相互に作用↑	相加
注意	ロラゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	相加作用
注意	ロルメタゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	相加作用

併用薬剤名
フェノバルビタール
関連キーワード: 抗てんかん薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	パロキセチン	パロキセチンの作用↓	パロキセチンの血中濃度↓、AUC↓、T _{1/2} ↓

併用薬剤名
フェロジピン
関連キーワード: カルシウム拮抗薬 降圧薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フェノバルビタール	フェロジピンの作用↓ 用量に注意すること。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、フェロジピンの血中濃度↓

併用薬剤名

副交感神経刺激剤

例)
ピロカルピン など

関連キーワード:
コリン作動薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	マプロチリン	ピロカルピンの作用↓	拮抗作用
注意	イミプラミン	ピロカルピンの作用↓	拮抗作用
注意	クロミプラミン	ピロカルピンの作用↓	拮抗作用

併用薬剤名

副腎皮質ホルモン剤

例)
デキサメタゾン など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フェノバルビタール	これらの薬剤の作用↓ 用量に注意すること。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、これらの薬剤の血中濃度↓

併用薬剤名

不整脈を引き起こすおそれのある薬剤

例)
シベンゾリン など

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ヒドロキシジン	併用により心室性不整脈等	ともに心血管系の副作用を起こすおそれがある。

併用薬剤名
ブチロフェノン系薬剤 例) ハロペリドール ブロムペリドール スピペロン など 関連キーワード: 抗コリン作用を有する薬剤 抗精神病薬 抗ドパミン作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	スルピリド	内分泌機能異常、錐体外路症状	相加作用
注意	タンドスピロン	錐体外路症状 ↑	相加作用 (タンドスピロンに弱い抗ドパミン作用がある)
注意	チアプリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用
注意	ノルトリプチリン	口渇、便秘、排尿困難、眼内圧亢進等があらわれることがある。	抗コリン作用の相加作用

併用薬剤名
フルコナゾール 関連キーワード: CYP3A4 阻害作用を有する薬剤 アゾール系抗真菌薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	トリアゾラム	トリアゾラムの作用 ↑ 及び作用時間 ↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝 ↓ 血中濃度 ↑
注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用 ↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度 ↑

併用薬剤名

フルボキサミン

関連キーワード:

CYP1D2 阻害作用を有する薬剤

CYP2D6 阻害作用を有する薬剤

SSRI

セロトニン再取り込み阻害作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用 ↑	CYP2D6 阻害作用によりアミトリプチリンの代謝 ↓ により血中濃度 ↑
注意	アルプラゾラム	中枢神経抑制作用 ↑	アルプラゾラムの代謝 ↓ で、AUC ↑、クリアランス ↑、Cmax ↑
注意	イミプラミン	セロトニン症候群のおそれあり。	相加作用
注意	エチゾラム	エチゾラムの作用 ↑ エチゾラムの用量を減量するなど、注意して投与する。	エチゾラムの代謝 ↓ 血中濃度 ↑
注意	オランザピン	オランザピンの作用 ↑ オランザピンを減量するなど注意する。	CYP1A2 阻害作用により、オランザピンのクリアランス ↓、血中濃度 ↑
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度 ↑ セロトニン症候群のおそれあり。	SSRI により代謝 ↓ また、相互にセロトニン作動性をもつ。
注意	ジアゼパム	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下	ジアゼパムのクリアランス ↓ (65%減)
注意	タンドスピロン	セロトニン症候群のおそれあり。	相加作用
注意	ドスレピン	ドスレピンの血中濃度が上昇し、ドスレピンの作用が増強するおそれがある。	ドスレピンの代謝 ↓
禁忌	ピモジド	QT 延長、心室性不整脈等	代謝阻害により、ピモジドの血中濃度 ↑
注意	マプロチリン	マプロチリンの血中濃度 ↑	SSRI によってマプロチリンの代謝が阻害され、マプロチリンの血中濃度 ↑

併用薬剤名

フレカイニド

関連キーワード:

CYP2D6 阻害作用を有する薬剤

抗不整脈薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用 ↑	CYP2D6 阻害作用によりアミトリプチリンの代謝 ↓ により血中濃度 ↑
注意	パロキセチン	抗不整脈薬作用 ↑	抗不整脈薬の血中濃度 ↑

注意	フェノバルビタール	フレカイニドの作用↓ 用量に注意すること。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、フレカイニドの血中濃度↓
----	-----------	--------------------------	---------------------------------------

併用薬剤名

プロパフェノン

関連キーワード:

CYP2D6 阻害作用を有する薬剤
抗不整脈薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用↑	CYP2D6 阻害作用によりアミトリプチリンの代謝↓により血中濃度↑
注意	イミプラミン	イミプラミンの作用↑	抗不整脈薬により、イミプラミンの肝代謝が阻害され、血中濃度↑
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度↑	イミプラミンの代謝↓
注意	パロキシセチン	抗不整脈薬作用↑	抗不整脈薬の血中濃度↑
注意	マプロチリン	三環系抗うつ剤(イミプラミン)で作用↑	イミプラミンの代謝↓

併用薬剤名

プロプラノロール

関連キーワード:

β 遮断剤
肝初回通過効果を受けやすいβ -遮断剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルボキサミン	徐脈、低血圧等	プロプラノロールの代謝↓によってプロプラノロール血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑
注意	マプロチリン	起立性低血圧、鎮静、口渇、霧視、運動失調等	マプロチリンの代謝が阻害されてマプロチリンの血中濃度↑

併用薬剤名
プロポフォール
関連キーワード: CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ミダゾラム	麻酔・鎮静作用↑、収縮期血圧↓、拡張期血圧↓、平均動脈圧↓心拍出量↓	相加作用 CYP3A4 阻害により、ミダゾラムの血中濃度↑

併用薬剤名
プロマゼパム
関連キーワード: 抗不安薬 ベンゾジアゼピン系薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルボキサミン	ベンゾジアゼピン系薬剤の血中濃度↑ ベンゾジアゼピン系薬剤を減量するなどして注意して使用する。	ベンゾジアゼピン系薬剤の血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑

併用薬剤名
ブロムペリドール
関連キーワード: 抗精神病薬 抗ドーパミン作用を有する薬剤 ブチロフェノン系薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	タンドスピロン	錐体外路症状↑	相加作用(タンドスピロンに弱い抗ドーパミン作用がある)

併用薬剤名
プロメタジン
関連キーワード: 抗ヒスタミン剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ペントバルビタール	中枢神経抑制作用（催眠、鎮静、昏睡等） ↑ 定期的に臨床症状を観察し、異常があればペントバルビタールを減量するなど適切な処置を行う。	相加作用

併用薬剤名
プロモクリプチン
関連キーワード: 抗パーキンソン病薬 ドパミン作動薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	カルピプラミン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	クロカプラミン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	クロルプロマジン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	デカン酸ハロペリドール	相互に作用↓	拮抗作用
注意	デカン酸フルフェナジン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	トリフロペラジン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	ハロペリドール	相互に作用↓	拮抗作用
注意	フルフェナジン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	プロクロルペラジン	相互に作用↓ 投与量を調節するなど慎重に投与する。	拮抗作用
注意	プロペリシアジン	相互に作用↓ 投与量を調節するなど慎重に投与する。	拮抗作用
注意	ブロムペリドール	ドパミン作動薬の作用↓	拮抗作用
注意	ペルフェナジン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	ペロスピロン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	モサプラミン	相互に作用↓	拮抗作用
注意	レボメプロマジン	相互に作用↓	拮抗作用

併用薬剤名

ベタヒスチン

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ヒドロキシジン	ベタヒスチンの作用↓	拮抗作用

併用薬剤名

ベラパミル

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

カルシウム拮抗剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フェノバルビタール	ベラパミルの作用↓ 用量に注意すること。	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用により、ベラパミルの血中濃度↓
注意	ミダゾラム	中枢神経抑制作用↑	CYP3A4 阻害作用により、ミダゾラムの血中濃度↑

併用薬剤名

ペルフェナジン

関連キーワード:

抗精神病薬

抗ドパミン作用を有する薬剤

フェノチアジン系抗精神病剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	パロキセチン	悪性症候群があらわれるおそれ。 過鎮静、錐体外路症状等。	フェノチアジン系抗精神病剤の血中濃度↑

併用薬剤名

ベンザミド系薬剤

例)

メクロプラミド

スルピリド

チアプリド など

関連キーワード:

抗精神病薬

抗ドパミン作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	チアプリド	内分泌機能調節異常又は錐体外路症状	相加作用
注意	スルピリド	内分泌機能異常、錐体外路症状	相加作用

併用薬剤名

ベンゾジアゼピン系薬剤、ベンゾジアゼピン誘導体

例)

アルプラゾラム

プロマゼパム

ジアゼパム など

関連キーワード:

抗不安薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルボキサミン	ベンゾジアゼピン系薬剤の血中濃度↑ ベンゾジアゼピン系薬剤を減量するなどして注意して使用する。	ベンゾジアゼピン系薬剤の血中濃度↑ or 半減期↑ or AUC↑
注意	マプロチリン	併用中のベンゾジアゼピン誘導体を中止すると痙攣発作が起こることがある。	併用中のベンゾジアゼピン誘導体を中止すると、痙攣発作が顕性化する。 危険因子: 痙攣素因のある患者

併用薬剤名

ホスアンプレナビル

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

HIV 治療薬

HIV プロテアーゼ阻害薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	アミトリプチリン	アミトリプチリンの作用 ↑	CYP3A4 阻害作用によりアミトリプチリンの代謝 ↓ により血中濃度 ↑
注意	イミプラミン	イミプラミンの血中濃度 ↑	ホスアンプレナビルの活性代謝物であるアンプレナビルがイミプラミンの代謝阻害する。
注意	クロミプラミン	クロミプラミンの血中濃度 ↑	アンプレナビルはクロミプラミンの代謝を競合的に阻害すると考えられる。

併用薬剤名

ホスアンプレナビルとリトナビルの併用時

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	パロキセチン	パロキセチンの作用 ↓	パロキセチンの血中濃度 ↓

併用薬剤名

ホスフルコナゾール

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

アゾール系抗真菌薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	トリアゾラム	トリアゾラムの作用 ↑ 及び作用時間 ↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝 ↓ 血中濃度 ↑

併用薬剤名

ポリコナゾール

関連キーワード:

CYP3A4 阻害作用を有する薬剤

アゾール系抗真菌薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	トリアゾラム	トリアゾラムの作用↑及び作用時間↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝↓血中濃度↑
禁忌	バルビタール	ポリコナゾールの代謝↑、血中濃度↓	バルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用による。
禁忌	フェノバルビタール	ポリコナゾールの代謝↑、血中濃度↓	フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用による。

併用薬剤名

マクロライド系抗生物質

関連キーワード:

CYP3A4 の選択的阻害剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	ペロスピロン	ペロスピロンの作用↑ 観察を十分に行い、慎重に投与する。	代謝↓血中濃度↑

併用薬剤名

麻酔薬、麻酔薬(全身麻酔薬)、麻酔時

例)

ハロタン など

関連キーワード:

中枢神経抑制剤

#を付記した薬剤は「麻酔薬(全身麻酔薬)」という表記での併用注意情報です

†を付記した薬剤は「麻酔時」という表記での併用注意情報です

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意 #	イミプラミン	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	カルピプラミン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	クロカプラミン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 #	クロミプラミン	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	クロルプロマジン	中枢神経抑制作用 ↑ 減量するなど慎重に投与する。抗痙攣 作用は増強されることはないので、抗痙 攣剤は減量してはならない。	相加作用
注意	スルトブリド	中枢神経抑制作用 ↑ 減量するなど注意する。	相加作用
注意	スルピリド	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	ゾテピン	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意 †	ゾピクロン	呼吸抑制 慎重に投与する。	相加作用
注意	ゾルピデム	呼吸抑制 慎重に投与する。	相加作用
注意	チアプリド	相互に中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	デカン酸フルフェ ナジン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻 酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	トリフロペラジン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻 酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	ヒドロキシジン	相互に作用 ↑ 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	ピモジド	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	フルニトラゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	フルフェナジン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻 酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意	フルラゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	プロクロルペラジ ン	中枢神経抑制作用 ↑ 減量するなど慎重に投与する。抗痙攣 作用は増強されることはないので、抗痙 攣剤は減量してはならない。	相加作用
注意	プロペリシアジアジン	中枢神経抑制作用 ↑ 減量するなど慎重に投与する。抗痙攣 作用は増強されることはないので、抗痙 攣剤は減量してはならない。	相加作用
注意	プロマゼパム	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	ペルフェナジン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻 酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用
注意 #	マプロチリン	中枢神経抑制作用 ↑	相加作用
注意	モサプラミン	睡眠(催眠)・精神機能抑制作用 ↑ 麻 酔効果 ↑, 血圧 ↓ 等 減量するなど慎重に投与する。	相加作用

注意	レボメプロマジン	相互に中枢神経抑制作用↑ 減量するなど慎重に投与する。抗痙攣作用は増強されることはないので抗痙攣剤は減量してはならない。	相加作用
注意	ロフェプラミン	中枢神経抑制作用↑	相加作用

併用薬剤名

マプロチリン

関連キーワード:
四環系抗うつ薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	フルトプラゼパム	(1)眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下 (2)併用中のフルトプラゼパムを急速に減量又は中止すると痙攣発作が起こるおそれがある。	(1)相加作用 (2)フルトプラゼパムの抗痙攣作用により抑制されていたマプロチリンの痙攣誘発作用がフルトプラゼパムの減量・中止によりあらわれることが考えられている。
注意	クロルジアゼポキシド	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等↓	相加作用
注意	クロルジアゼポキシド	マプロチリンと併用しているクロルジアゼポキシドを急速に減量又は中止すると痙攣発作がおこる可能性がある。	クロルジアゼポキシドの抗痙攣作用により抑制されていたマプロチリンの痙攣誘発作用がクロルジアゼポキシドの減量・中止によりあらわれることが考えられている。
注意	エスタゾラム	1)眠気、注意力・集中力・反射運動能力等↓ 2)併用中のエスタゾラムを急速に減量又は中止すると痙攣発作がおこる可能性がある。	1)相加作用 2)エスタゾラムの抗痙攣作用により抑制されていたマプロチリンの痙攣誘発作用がエスタゾラムの減量・中止によりあらわれることが考えられている。
注意	ジアゼパム	1)眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下 2)併用中のジアゼパムを急速に減量又は中止により痙攣発作	1)相加作用 2)ジアゼパムの抗痙攣作用により抑制されていたマプロチリンの痙攣誘発作用がジアゼパムの減量・中止によりあらわれることが考えられている。
注意	ロラゼパム	(1)眠気、注意力・集中力・反射運動能力等↓ (2)併用中のロラゼパムを急速に減量又は中止すると痙攣発作が起こるおそれがある。	(1)相加作用 (2)ロラゼパムの抗痙攣作用により抑制されていたマプロチリンの痙攣誘発作用がロラゼパムの減量・中止によりあらわれることが考えられている。
注意	ロルメタゼパム	1)眠気、注意力・集中力・反射運動能力等↓ 2)併用中のロルメタゼパムを急速に減量又は中止すると痙攣発作がおこる可能性がある。	1)相加作用 2)ロルメタゼパムの抗痙攣作用により抑制されていたマプロチリンの痙攣誘発作用がロルメタゼパムの減量・中止によりあらわれることが考えられている。

注意	フルタゾラム	併用中のフルタゾラムを急速に減量又は中止すると痙攣発作が起こるおそれがある。	フルタゾラムの抗痙攣作用が、四環系抗うつ剤による痙攣発作の発現を抑えている可能性がある。
注意	フェノバルビタール	(1)相互に作用↑ (2)これらの抗うつ剤の血中濃度↓減量するなど注意すること。	(1)相加作用 (2)フェノバルビタールの肝薬物代謝酵素誘導作用による。
注意	ロフラゼパ酸エチル	併用中のロフラゼパ酸エチルを急速に減量又は中止すると痙攣発作が起こるおそれがある。	ロフラゼパ酸エチルの抗痙攣作用が、四環系抗うつ剤による痙攣発作の発現を抑えている可能性がある。

併用薬剤名
ミコナゾール
関連キーワード: CYP3A4 阻害作用を有する薬剤 アゾール系抗真菌薬

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
禁忌	トリアゾラム	トリアゾラムの作用↑及び作用時間↑	どちらも CYP3A4 で代謝されるため、トリアゾラムの代謝↓血中濃度↑
注意	プロチゾラム	プロチゾラムの作用↑作用時間↑	ミコナゾールで代謝酵素 CYP3A4 が阻害され、プロチゾラムの血中濃度↑

併用薬剤名
ミルナシبران
関連キーワード: セロトニン再取り込み阻害作用を有する薬剤

併用情報	一般名	臨床症状・対処	機序・危険因子
注意	イミプラミン	セロトニン症候群のおそれあり。	相加作用
注意	クロミプラミン	セロトニン症候群のおそれあり。	相加作用
注意	タンドスピロン	セロトニン症候群のおそれあり。	相加作用

併用薬剤名
